

平成24年度 事業報告書

ケアハウス大慈

1. <法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <ケア理念>

「手から手へ 忠恕（真心）を込めて」

3. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、ご自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

4. <最終目標>

- みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔。
(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します。)
- ・生きがい・やりがいを大切にします。
- ・自分らしさを大切にします。
- ・笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします。
- ・みんながしあわせになることを目指します。

5. <中期計画>

- ①ケアハウス大慈の理念や方向性を周知し、ケアハウス大慈「らしさ」を共有し、みんなで作り上げていくという風土を作る。
- ②スタッフが介護職ということやケアハウス大慈に勤めていることに誇りを持てる。

6. <重点目標>

『ゲストが心豊かな毎日を送れるようにする』
～いきいきのびのびスマイリー運動～

7. <ケア部門>

①ケア理念の周知と実行、スタッフへの教育の強化

- A) ケアの理念を念頭に置き、専門職としての意識を高め、対応能力・観察力・判断力・知識の向上につなげる。

各フロアでの会議にて理念の唱和を行い理念の周知から始めた。方向性については話し合う事が出来ず、フロア会議では主にゲストのケアについて、またコキヤスタについては、浸透させお互いに業務中に注意しあうことで意識するように努めた。年間でのOFF-J-Tを計画し虐待や看取りなどに関する研修を行うことが出来た。

②バリデーションの浸透

- A) バリデーション委員会を中心にバリデーションについて学び、実際にケアハウス大慈で使いやすい具体的方法をまとめ、ケアハウス大慈のコミュニケーションスタイルを確立する。

月に1度委員会を開催し、ケアハウス独自のコミュニケーションスタイルを作った。各フロア一人の認知症状の見られるゲストを対象に、どんな声掛けや行動で、どんな様子が伺えたのか記録に残すことで、情報の共有を行った。今後も継続し認知症状のゲストへの対応方法などの情報を全体で共有していく。

③余暇活動の充実

- A) ゲストの状態に応じた楽しみを提供する。

お花見・買い物外出・紅葉を見になど、フロア毎に特色のある外出を企画し実施できた。月のフロア行事は、それぞれで季節に合ったものを企画し実行はできているが、インフルエンザが流行し施設が閉鎖、外出行事やフロアでの行事が中止となる事態が起きてしまった。

④意見交換の充実

- A) 各会議でスタッフ同士が、率直に意見交換が出来る関係や雰囲気を作る。

コーチングの研修をリーダー・サブリーダーを対象に行う。そこでの学んだ強いチームづくりを念頭に置き、業務に励んでいる。今後も定期的に研修の企画は必要である。施設内研修では、グループワークや演習の時間を取り入れるよう努め、また忘年会や施設内の交流や法人の交流の企画をお知らせし、スタッフ間の交流の促進を図った。しかし、自施設での交流会では参加率は66%であるが、法人全体となると参加率が48%と低くなる傾向にあり課題として残った。

8. 《環境設備計画》

畑の横にある敷地の工事を行い、ゲストが散歩やお茶、バーベキュー等を楽しめるスペースを作る

企画・実施することが出来ず、来年度に持ち越す事となった。

9. 《経営部門》

- ケアハウス大慈のチャージングポイントをアピールして、充足率97%以上を維持する。

- A) チャージングポイントを明らかにし、ご家族や各機関に伝える。そのためにパンフレットの内容を見直し、作り直す。
B) 他施設や他事業所と協力し合って、入居者・待機者の確保に努める。
C) 退居者が出た場合は、速やかに次の入居を進める。

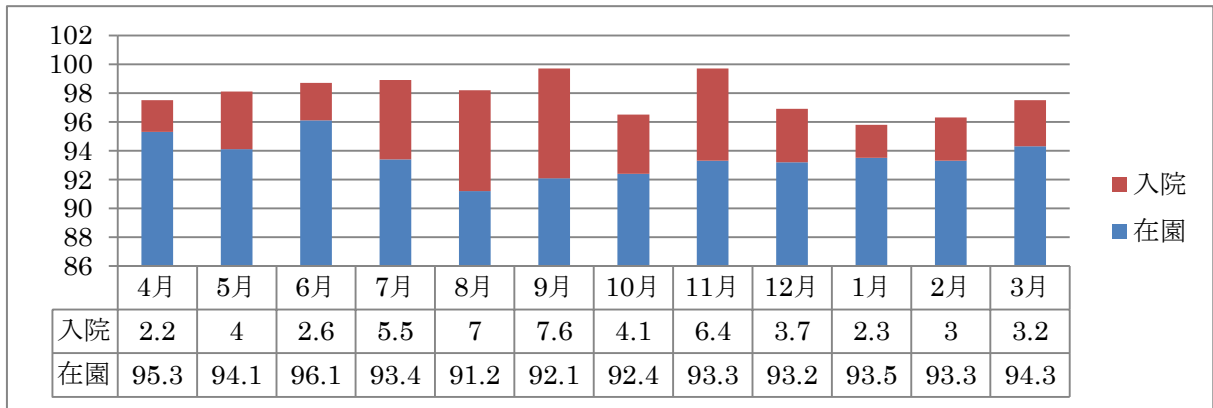
ケアハウス大慈のチャージングポイントの一つとしてターミナルケアを行うということが挙げられているが、検討課題（ターミナル時期の吸引など）が出てきたため、明らかに出来ず見送りとなっている。1年を通して在籍率の平均は約98% 充足率は約93% 入院率は約4%であり、充足率97%を維持することが出来なかった。

夏場の8月から9月にかけて月平均7.6%の入院率となり、多い日には10人を超す入院者が出る事となった。相談員、現場、医務と話し合いを行い、病院との連絡を密に取ることで、退院までの流れをスムーズに行った結果、何とか10月頃より入院率を約3%台に下げることが出来た。

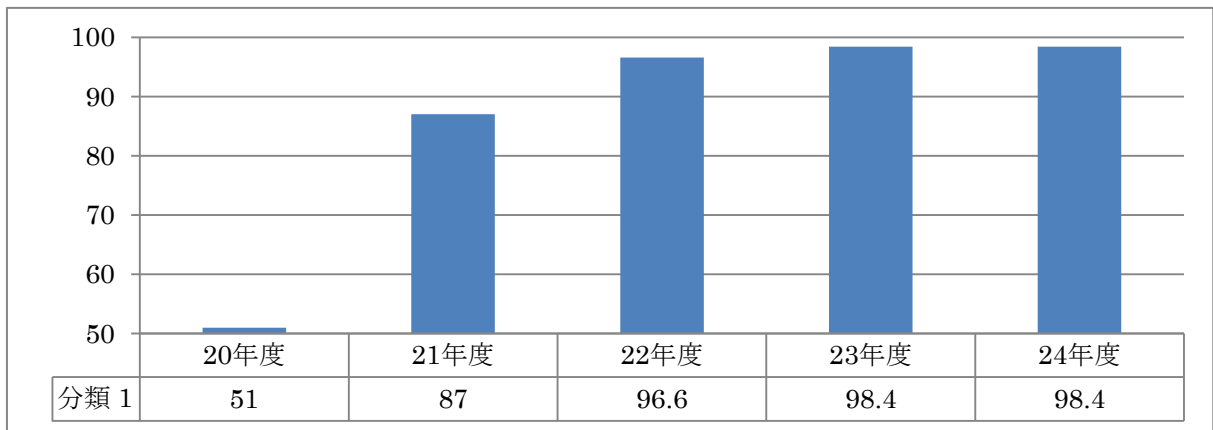
年末年始にかけて空所が3部屋～4部屋あり、速やかな入居に繋ぐことが出来なかったが、事業所や病院に空き状況をFAXすることで、年始からは相談件数が増加し、3月には満床となった。現在、予約いただいている方は、18名であるが緊急性がないため、依

然として待機者確保が課題となっている。

● 24年度月別充足率表



● 年度別充足率推移



● 介護度別年齢別等人数表

平成25年3月31日時点での在籍数
最高滞在期間4.88年

要介護度	24年度				23年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	11	3	8	85.5歳	11	3	8	86.3
支援2	14	4	10	86.9歳	16	5	11	88.6
1	18	5	13	85.6歳	19	2	17	84.2
2	18	7	11	87.8歳	17	8	9	87.4
3	10	4	6	86.7歳	8	2	6	85.1
4	11	1	10	88.5歳	13	2	11	85.7
5	13	1	12	87.1歳	11	2	9	86.3
合計	70	18	52		68	16	52	
平均介護度		2.3	2.6	2.6		2.6	2.6	2.6
平均年齢		88.2歳	86.8歳	87.1歳		88.1歳	85歳	86.4歳
最高年齢		100歳	98歳			99歳	97歳	
最小年齢		76歳	69歳			78歳	68歳	

10.《栄養科》

①おいしく安全で、笑顔になれる食事の提供

- A) 『1日3度の感動を』この言葉に毎日の食事が少しでも近づける様に、創意工夫を行う。
- B) フロア毎の行事や全体行事において、出来る限りのサポートを行い、時には主となって企画立案する。
- C) チェリッシュ委員会を通して、ゲストに合った食事サポートができるよう食事サポートマニュアルを見直す。
- D) 食事時間にユニットへ足を運び、ゲストの要望を聞くことによって、ゲスト個々に合わせた食事が提供できるようにする。

行事食や誕生日お膳、季節感の出る食材を使用したメニューの提供をすることが出来た。中でも裏の畑でゲストに収穫してもらった野菜を使用することはゲストに喜の提供となった。委員会ではスタッフと情報の交換を行い、医務や現場からの相談にも出来るだけ答えられるように努力をした。食事サポートマニュアルについては、委員会で話し合うが、変更はない。今後も定期的に見直しが必要。また時間のある限り、ユニットへ足を運びゲストの希望や要望を聞くことが出来た。

②栄養アセスメントの充実

- A) フロア毎のケアカンファレンスに合わせて、食事と体重管理を行い、ゲスト、ご家族、職員の誰が見ても今までの経過が分かるアセスメント表を引き続き作成していく。
- B) チェリッシュ委員会を通して、スクリーニングの重要性を伝える。
- C) 他職種と連携を図り、情報交換を行う。

カンファレンスに参加することで情報の提供を行うことが出来た。栄養アセスメント表を作成しご家族が食事の面でのケアがわかりやすいように工夫を行った。また、嗜好調査などで、ここでの様子が分かるように、ご本人から聞かれた言葉をそのまま記述して提供した。

③厨房の新体制の確立

- A) 委託栄養士と協力して、厨房のタイムテーブルを作成し、業務の効率化を図る。
- B) ゲストの声を厨房に伝え、より良い食事が提供できるよう話し合う事を継続する。

タイムテーブルを作成し業務の効率化を図り、厨房会議にてゲストの声を伝え、厨房のスタッフとノートを使用することで意見交換、疑問等に答える体制、問題の解決がスムーズに行えた。また、厨房でのミスが少なくなるよう食札等を色分け、誰もがわかるように工夫を行った。

<行事表>

月	日	行事名	月	日	行事名
4月	6	お花見弁当 (4F)	10月	4	新人研修交流会
	11	お花見弁当 (3F)		10	屋台風 (全フロア)
	13	お花見弁当 (2F)		10	婦人会来園・ティータイム
	18	ティータイム (4F5F)		12	運動会 (串カツ+お弁当) (4F)
	19	バイキング (3F)			パンくい競争
	20	ティータイム (2F3F6F)		17	ティータイム (4F5F)
5月	5	こどもの日メニュー	11月	5	バイキング (5F)
	13	母の日メニュー		11	100歳祝いの会 (3F)
	22	バーベキュー (6F)		14	バイキング (3F)

	25 29 30	バイキング (4F) バーベキュー (6F) バーベキュー (6F)			
6月	15 17 20 21 28	ティータイム (2F3F6F) 父の日メニュー ティータイム (4F) バイキング (5F) すなっくちいちゃん	12月	15 18 19 20 25 28 31	クリスマスメニュー (4F) クリスマスメニュー (3F) クリスマスメニュー (6F) クリスマスメニュー (2F) クリスマスメニュー もちつき大会 年越しそば
7月	2 7 20 25 27	オープン4年バイキング 七夕メニュー バイキング (6F) プチ夏祭り (5F) 土用の丑	1月	1 6 7 11	おせち 新年会 (6F) 七草粥 鏡開き (チェリッシュにてぜんざい提供)
8月	4 10 10 17	ケアハウス夏祭り バイキング (2F) ティータイム (4F5F) ティータイム (2F3F6F)	2月	3 20 22 26	節分メニュー ティータイム (2F3F6F) すなっくちいちゃん ティータイム (4F5F)
9月	12 14 17 19	バイキング (3F) 芋ほり 敬老の日 焼き芋	3月	3 8 27	ひな祭りメニュー お好み焼きパーティー (3F) にぎり寿司パーティー

1.1.《看護部》

●ゲストが心豊かな生活が送れるよう、看護師としての役割を果たす事が出来る。

- ①医師・フロアリーダー・ケアワーカー・理学療法士・栄養士・相談員などの他職種との連携を強化し、有効な情報交換を行うことでゲストのニーズに応えることができる。

現場との情報交換を密に行い、出来るだけゲストご本人との対話やコミュニケーションの中からニーズを把握できるように努力した。また、病院との窓口を相談員に一本化することで、連携の強化につながった。今後、ご家族との情報交換の時間を増やし、ご家族の気持ちも取り入れた看護が出来ればと考える。

- ②記録類の記載の充実を図ること及び業務整理を行うことにより現看護部の問題点の把握と評価を行い、より質の高い看護へとつなげる。

看護日誌作成にPCを導入することで業務が効率的になった。看護師の育休と異動から、人員が減少、毎日の健康管理と情報提供書作成に追われる形となり、業務の整理や問題点の把握評価までは行うことが出来なかった。

<年間業務>

月	項目	内容
5月	ゲスト定期検診	胸部X線・採血
6月・7月	職員定期検診 (全職員)	胸部X線・採血・検尿・検便・心電図 腰椎X線 (CWのみ)
11月・12月	ゲスト・全スタッフ	インフルエンザ予防接種
11月	職員定期検診 (CWのみ)	採血・腰椎X線

<往診・受診>

曜日	午前 午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午前	平山尚哉	歯科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	月2回
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
		森 啓行	糖尿内科	毎週
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週

※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

1 2. <<機能回復訓練部>>

ケアハウス大慈における機能訓練士の理念に則して、ゲストの全人的苦痛を可能な限り取り除き、QOLを高める為一人ひとりが求めている生活への思いを実現できるようサポートしていく。また、他スタッフと連携をより深め、情報の共有・事故防止などをチームでのケアを進めていく。

<実践目標>

- ①身体的疼痛の除去（# 1、4）
- ②ゲストのADLの維持・向上（# 1～3、5）
- ③介護予防の実践（# 1～3、5）
- ④事故防止に向けてのリスク管理（# 5、6）
- ⑤ケアプラン・目標の共有（# 7）
- ⑥施設内研修会の計画・実施（# 8）
- ⑦地域での介護予防の実施

<実践内容>

1 個々の状態に合わせた評価・計画立案・機能訓練・目標設定・モニタリングの実施。

FIMを用いたADL評価及びほのぼのソフトを用いて記録管理を行うことが出来た。

2 定期的な客観的ADL評価、及び身体機能評価の実施

ライフプランに合わせて評価を行い、わかりやすい書式に変更しご家族に情報提供することが出来た。

3 運動療法・物理療法の実施

機能訓練や物理療法の人数を増やす努力を行った、次年度は目標人数を決めて行っていく。

4 福祉用具および居住環境の調整

フロアと連携を行い、環境整備、ポジショニングのアドバイス等を行うことが出来た。

5 バリデーシヨンの実施

委員会と協力しながら作成されたプランを実施することで認知症のゲストの方に上手に対応できたサポート内容を記載し、同じ対応を実施することで情報の共有が出来た。

6 スタッフへの情報提供およびサポート方法の指導

スタッフからの相談のあったケースに関して情報提供は行ったが、今後、リハビリの観点からフロアにアドバイスを行ってゆければと考える。

#7 ケアカンファレンス、FS会議等への出席

リハビリを受けていない方のカンファレンスにも参加するよう努力をした。また、参加できない場合は、情報提供書にて提示した。

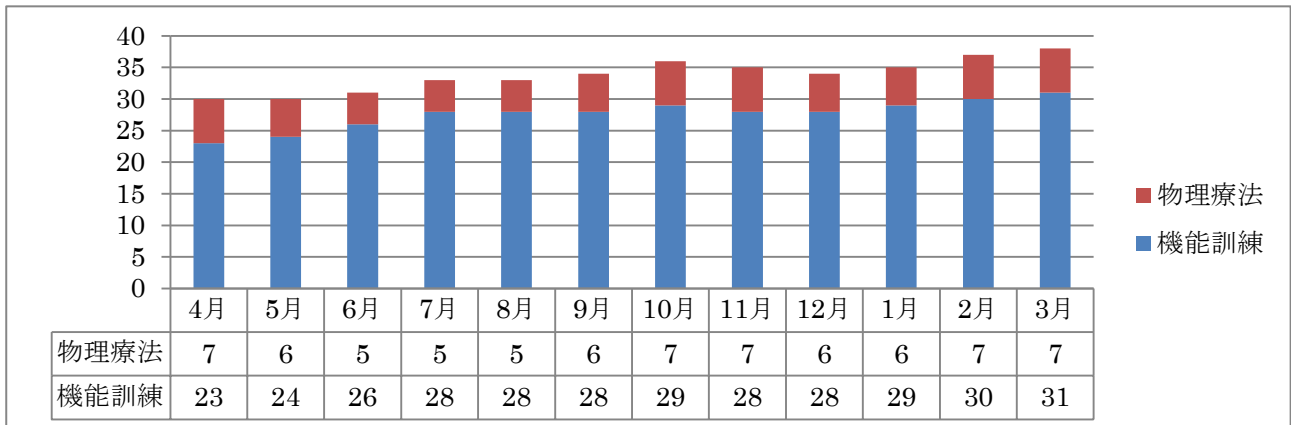
#8 事業計画に則り、スタッフの資質向上に資する研修会の実施

O F F-J-Tの司会進行、まとめ役を行い、研修会を実施することが出来た。

#9 月1回の体操教室の実施

各フロアにて体操教室を開催した。

<実施者集計>



1.3. <行事等実施内容・反省点>

①買い物ツアー

⇒毎週木曜日に自立している方を対象として、西神中央・西神南への送迎を行った。サポートが必要な方は、フロア毎に外出行事として参加する事が出来た。

②映画上映会

⇒毎週日曜日にシアタールームにて映画上映を行っていたが、参加者が少なく、どなたも来られない日も見られた。月に1回の開催で様子を見ているが、告知の問題、スタッフ対応が薄い事が問題なのか検討していく必要がある。

③シルバー体操

⇒毎週水曜日に講師による体操を行った。

④フラワーセラピー

⇒月に1回、講師によるフラワーアレンジメント教室を開催した。

⑤ミュージックセラピー

⇒好評のためフロア毎に分かれて、月に2回、実施した。

⑥絵手紙

⇒月に1回、講師に来て頂いている。幅広い状態の方の参加が見られた。

⑦その他ボランティアの方による慰問

⇒毎月1～3回、メイク、歌とお話、歌と演奏。

月	行事名	内容
4月	お花見 (全フロア)	フロア毎にお弁当を持参したり、現地で昼食を取ったりと様々である。予定していた日が天候がよくなかったり、開花の時期とずれていたりと残念な結果のフロアもあったが、それなりに工夫をし、敷地内の桜の木まで散歩をしたり、レストランにて食事を提供するなどで代

		替えのお花見を提供することが出来た。
5月	にこにこ体力測定 (2F)	理学療法士が審査することで雰囲気作りに努めた。全参加ゲストに握力・踏み台・輪投げ・早口言葉など競い、審査結果と賞状を贈ると「記念になるよ」と喜ばれた。
	外食ツアー (寿司) (3F)	毎回、好評であるお寿司ツアーを企画、お寿司を好きなゲストが多く、普段よりも笑顔も召し上がる量も多く見られた。
	いちご摘みツアー (4F)	毎年、企画している行事の一つであり、大きないちごを見るだけで、笑顔がこぼれ、頬張る姿が見られた。
	舞子プロムナードへ行こう (5F)	9名のゲストと外出、高所に少し引きつる表情が印象に残った。舞子ビラでの昼食もゲストから好評を得る事が出来た。
	バーベキュー大会 (6F)	バーベキュー場へ出かけての屋外で食事。普段とは違う食事の雰囲気を味わうことが出来、皆さんとても喜ばれた。
6月	あつあつベビーカステラ作り (2F)	リビングで焼くことで、皆さんが興味を持ち、普段参加されない方までが参加された。しかし、段通りが悪く、ゲストを待たせてしまう時間が出来たことは反省点として残った。
	買い物ツアー (3F)	年1回イズミヤまで買い物に出かけている、時間がなく、急ぎ足の買い物となった。今後は、少し余裕を持てるよう計画を見直したい。
	外食ツアー (お寿司) (4F)	行きたいお店を選択制にしマンツーマンでの外出とした。ゲストとのコミュニケーションが多く取れ、ゲストにも大変満足であったと好評であった。
	たこやきパーティー (5F)	目の前で一緒にたこやきを焼いた。アツアツを食べられたことが好評であった。
	寿司ツアーぶらりとウィンドウショッピング (6F)	お寿司屋さんで好きなネタを注文できる事に満足いただけた様子。男性ゲストは飲酒され、女性ゲストは、お買い物を楽しむ事が出来た。
7月	焼き板作り (2F)	物珍しさからか、普段、参加されないゲストの参加がみられた。ただ、完成した焼き板は、今一步もの足りない物であった。
	買い物ツアー (3F)	マンツーマンで対応とした事で、ゆっくりと買い物が出来た為、有義な時間を過ごすことが出来た。
	わらびもち作り・抹茶・フラワーアレンジメント (4F)	「昔、作ったことがある」、「懐かしい」との声が多く楽しんでいただくことが出来た。
	納涼祭 (5F)	ゲスト・スタッフ共に一緒に食べながら、ビンゴゲームやスタッフの出し物を楽しんでいただいた。また、罰ゲームとしておこなった尻文字では、大きな笑いが起こり、熱さを忘れるひと時となった。
7月	喫茶ツアー (6F)	少し距離はあったが、ドライブがてらのツアーとなり、喜んでいただく事ができた。
8月	スイカ割り (2F)	スイカ割りを行い、季節感を出すことが出来た、また、昔、懐かしい行事でもあり、皆さんの笑顔を見る事が出来た。
	買い物ツアー (3F)	マンツーマンで外出を行い、ゆっくりと買い物が出来た。反省としては、2か月にわたり、買い物ツアーを企画したので、他の行事が出来

		なかった。
	食事ツアー (4F)	和食のさと 廣東餃子房に分かれ、4日間で企画、普段、少食であるゲストもたくさん食べられる姿が見られた。
	夏のお茶会 (5F)	ボランティアでお茶の先生に来園頂き、お茶をたてて頂いた。「作法なんて忘れた」との声も聞かれたが厳かな雰囲気でお茶を飲むゲストの姿が印象的であった。
	夏にさっぱり、心太を作ってたべよう (6F)	実際に、心太を突くことで季節感も味わうことが出来た。お好きな味付けを選び楽しみながら食することが出来た。
9月	おはぎ作り (2F)	フロアで行う事で、外出行事や屋内行事に参加されない方が、興味を持たれ、積極的におはぎ作りに参加された。
	お好み焼きパーティー (3F)	フロアにホットプレートを用意し、目の前で好み焼きとやきそばを焼いた。温かいものを提供し、美味しいと喜ばれた。
	舞子プロムナード (4F)	明石海峡を一望出きる所でお茶を飲み、「こんな所初めて」と橋の上からの景色に感動されている。
	ドラマ館(平清盛)を見に行こう (5F)	ゲスト9名と平清盛ドラマ館へ訪れた。昼食をオリエンタルホテルで摂ったが、やはり花よりだんご、帰園後、昼食の話をするゲストが多かった。
	陶芸教室・マグカップ作り (6F)	ご家族様へのプレゼントとして作られる方が多かった、またご自分の作ったものを自慢げに見せている方もおられた。
10月	秋の運動会 (2.4.5F)	国旗なども飾り、雰囲気づくりに努めた。チームに分かれて、準備体操、玉入れ、ピン倒しなどゲームを実施。普段は物静かな方からも「負けるな」と熱のこもった声が聞かれた。
	外食ツアー (3F)	アンケートにて行きたい場所を選定し、和食の和平となる。お刺身を好きな方が多く、定食を頼むが全部食べられないと、スタッフに譲られる方もいらっしやった。
	秋の森林公園紅葉ツアー (2F)	三木森林公園に出かける。紅葉を見ながら散歩を行い、落ち葉を拾った。きれいな落ち葉を拾い、髪飾りなどにしておられた。
	運動会 (3F)	赤白帽をかぶり雰囲気づくりを行い、ユニット対抗でボール送りや玉入れを行った。負けたくないとの思いから普段は活動量が少ないゲストも頑張る姿が見られた。
11月	おはぎ作り (4F)	スタッフとゲスト一緒におはぎ作りを行い、一緒に食べた。ゴム手袋を用意するのを忘れたことは反省として残った。
	淡路島へ行こう (5F)	ゲスト8名とパルシェ香りの館へ訪れた、みんなでキャンドル作り行ったのだが、細かい飾りが、なかなか思うように配置できないようで、悪戦苦闘しながら取り組まれていた。
	紅葉の季節！森林公園で紅葉をみよう (6F)	色着いた紅葉を眺めたり、どんぐりを拾われたりと童心へかえり楽しまれた。散歩を行うがゆるやかな坂が続き、少し疲れが出たゲストもいらっしやった。
12月	クリスマス会	劇やコーラスなどそれぞれのフロアで試行錯誤し、出し物や食事、クリスマスケーキ、プレゼントを準備した。プレゼントは、皆さん同じ

		でないと思われ、不満に思われるフロアから個々に合わせたプレゼントまで様々。今年も楽しい時間を提供できた。
1月	お茶会 (2F)	お茶を習っていた方が多く、「懐かしい、久しぶり」などの声が聞こえた。また、和菓子も彩りよく好評であった。
	初詣 (3.5.6F)	近くの神社にお参りに行く。砂利道が歩きにくかったが、「行けた」「良かった」との声が聞かれた。フロアによっては、その後、おぜんざいを食べに出かけた。ただ、一つのフロアは、スタッフの体調不良により、外出が出来なくなり、近隣を散歩するという形になってしまった。
	新年会 (6F)	カニ鍋を皆さんで楽しんだ。お正月にちなみ、福笑いを用意し、失敗し変な顔が完成すると大笑いが聞こえた。
2月	巻きずし作り (4F)	たまごやきゅうり、梅などの具を用意し、まきすを使用しご自身で巻いてもらい楽しんだ。
	節分まめまき (2.5.6F)	各フロアでスタッフが鬼に変装し、豆まきを楽しんだ。男物のパッチとトランクで鬼スタイルを演出しているところから、本格的な着ぐるみを用意したり、おなかに鬼の絵を書いて、踊っているスタッフまで見かけた。ゲストは変装しているスタッフにとっても喜ばれて、豆を投げられていた。
3月	ひなまつり食事会あんみつパーティー (2F)	各階でひな祭りの飾りつけを行い、フロア毎のひな人形を楽しんだ。また、あんみつパーティーを開催。団子を作る方、フルーツを切る方、それぞれ役割を分担し、最後には思い思いに盛り付けて食べた。
	コンサート外出 (5F)	スタッフの一人が区民センターのコンサートに出演することから、フロアのゲストと観に行った。ソプラノの歌声やフルート、バイオリンなど音色もよく「上手だったよ」と声をかけておられた。
	お好み焼きパーティー (3F)	ホットプレートを用意し、一緒に焼いて頂いた。好みの具材を入れて焼くことで美味しく、楽しく食べることが出来た。
	お汁粉とぜんざいで楽しみましょう (6F)	「ぜんざいが食べたい」との声が多く聞こえ、企画する。多くのゲストと一緒に召し上がり、食事量が少ない方も、ぜんざいは、ぺろりと食べられた。

1 4. 《会議の実施内容・反省点》

①チェリッシュ委員会 (毎月)

⇒毎月、栄養士・各フロアの委員とゲストへのより良い食事提供の為に、話し合いを行った。ゲストの要望もよく声に上がり、その都度、変更調整を行うことが出来た。

②行事委員会 (奇数月)

⇒夏祭りは屋外で実行。ゲスト・ご家族共に喜んで頂き、スタッフも達成感を強く感じる事ができた。慰問や映画鑑賞等の見直しを随時行い、ゲストのニーズに合わせていく努力を継続していきたい。

③感染症防止対策委員会 (毎月)

⇒感染症の予防・蔓延防止について話し合い、マニュアルの見直し・改正を行った。又、研修を行い、スタッフの感染に対する知識や意識の向上に努めたが、1月から3月にかけてインフルエンザが大流行し施設を閉鎖する事となった。

④RM委員会 (毎月)

⇒事故報告書の検討・ドキドキ報告書の検証を行った。

⑤マナーアップ委員会（毎月）

⇒大慈園と合同で、マナーについて勉強し向上に努め、マナー委員が腕章をつけ巡回を行った。

⑥設備・災害委員会（毎月）

⇒設備では、コスト削減を意識し、消耗品の管理を徹底していくことが出来た。また、災害委員では、年間の予定を計画通りに実施できた。

⑦入浴委員会（偶数月）

⇒各フロアの機械浴・一般浴の調整はスムーズに行うことが出来た。一人1時間枠を取ることでゆっくりと入浴の時間を取る事が出来るが、機械浴の使用方法については周知徹底できていない時もあった。

⑧排泄委員会（奇数月）

⇒排泄に関する技術について確認し、統一を図る、また個人負担であるオムツの使用量や単価を調べ、個々の排泄時間・回数を見直す事ができた。

⑨エコ・節約委員会（不定期）

⇒ごみの分別について、委員だけでなく他スタッフもごみの分別が出来るよう順番に参加することで、少しずつ仕訳について理解が深まった。ただ、完璧に仕訳が出来る状態ではない。引き続き、みんながごみの分別が出来るように、周知して行きたい。

⑩バリデーション委員会（毎月）

⇒各フロア1名のゲストを対象にケアハウス大慈のコミュニケーション技法を実施、毎月、委員会にてその方の情報やその時の対応、言動の情報交換を行った。また、取り組みをライフプランに記載することでフロアのスタッフ全員で取り組んでいった。

⑪F S・大慈な会議（毎月）

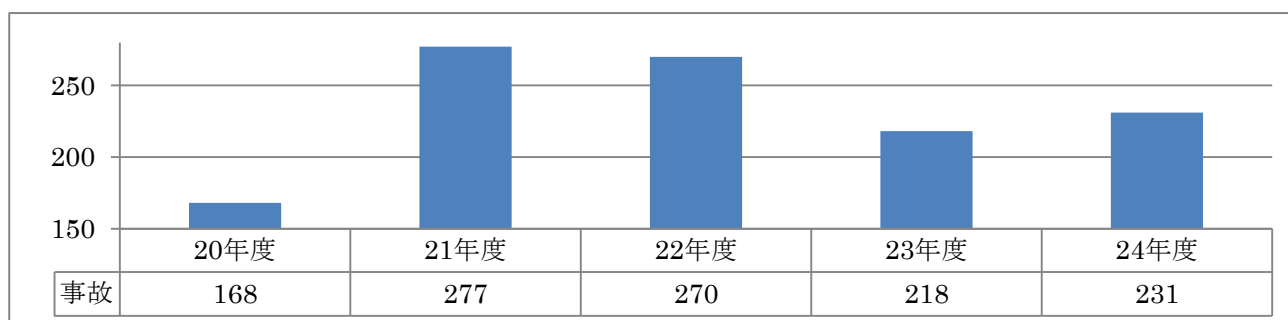
⇒施設長・リーダー・サブリーダー・各部署代表が出席し、報告・連絡・相談を行った。

15.《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

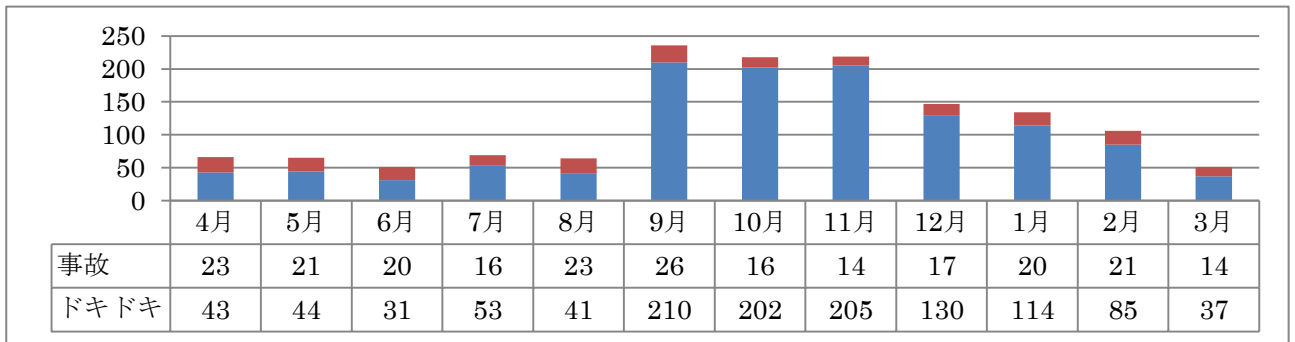
ドキドキは9月が210件、事故は9月が26件と最も多くなっている。ドキドキにおいて9月に急激に報告件数が増加しているが、これは6階を中心にドキドキ報告書の提出を促す活動を9月に行ったことに起因する。



24年度				23年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1,426件	231件	1,195件		1,107件	218件	889件

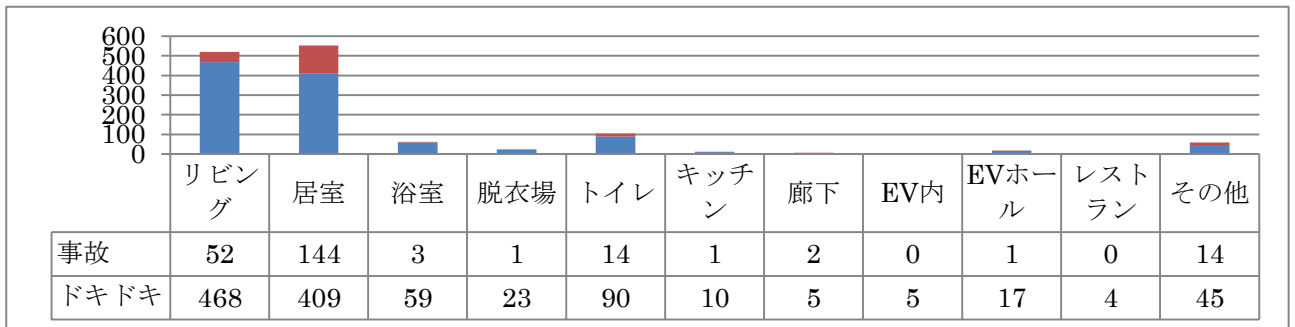
○内訳

平成24年度				平成23年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	133件	51件	82件	2F	115件	30件	85件
3F	184件	36件	148件	3F	142件	35件	107件
4F	358件	57件	301件	4F	335件	35件	300件
5F	101件	22件	79件	5F	121件	18件	103件
6F	650件	65件	585件	6F	394件	100件	294件



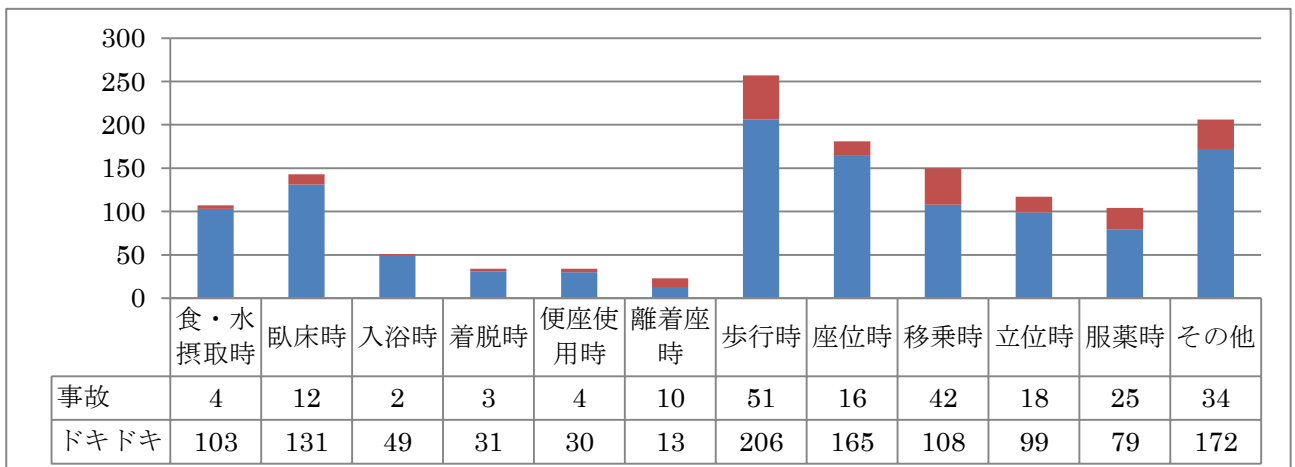
②発生場所別件数

事故、ドキドキ共にリビング、居室の報告件数が群を抜いて多くなっている。報告件数から事故の割合を考えるとリビングが10%、居室が26%となり、居室はスタッフの目が届きにくくドキドキで留める事ができず事故に至るケースが高い事を表している。



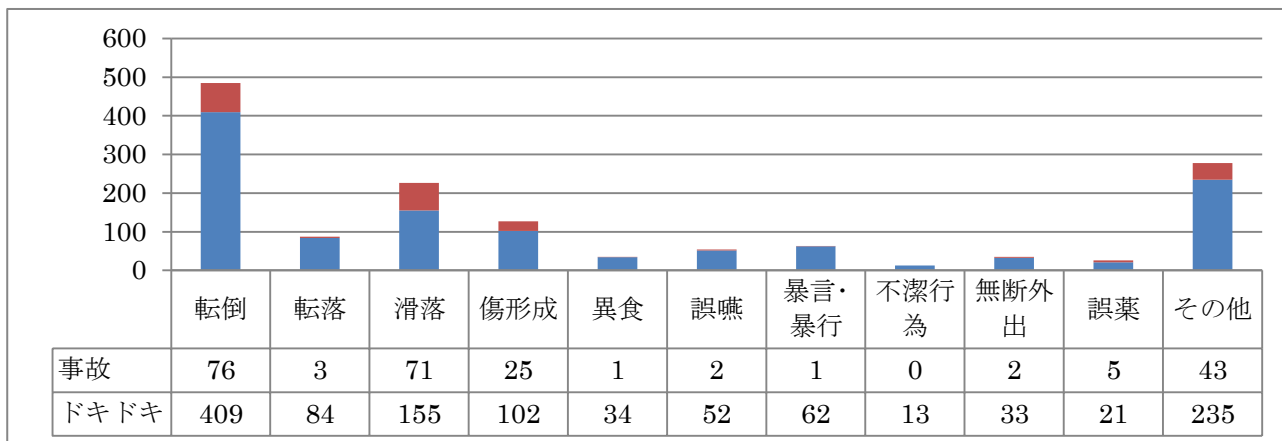
③発生状況別件数

前年度に引き続き、歩行時が事故、ドキドキ共に最も多くなっている。今年度、その他としてのドキドキ、事故報告が急激に増加している。要因分析と対策が必要と考える。



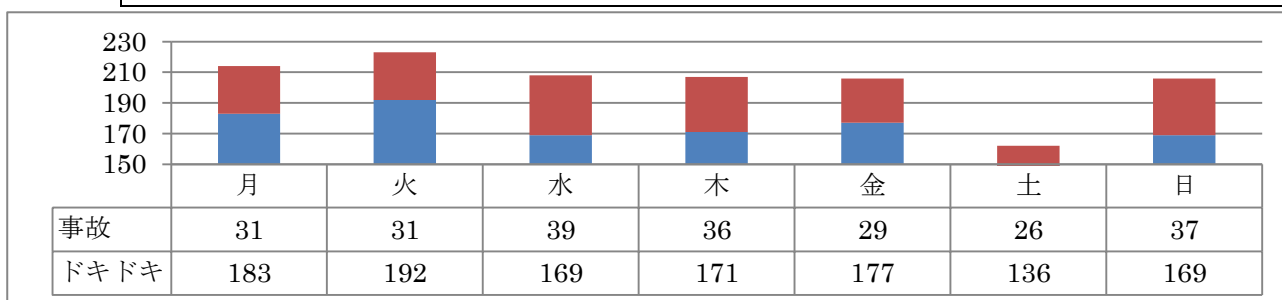
④発生内容別件数

転倒が事故、ドキドキ共に最も多く、次いで滑落の事故件数が多い。滑落はドキドキの報告件数に比べると事故が多い（報告件数からの事故の割合が転倒16%、滑落31%）。動き出しの把握が難しい事を示している。



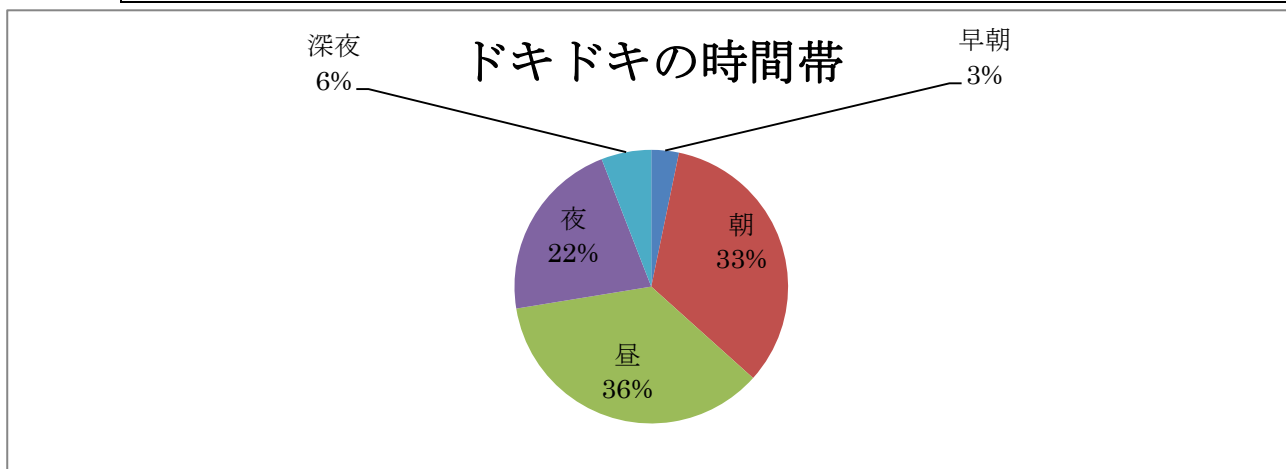
⑤曜日別件数

前年度、正規職員が減少しパート職員を増員した事により、日曜日の出勤者が減少し事故報告が多かったが、それを踏まえ職員の雇用を行った為、日曜日の事故報告が減少した。

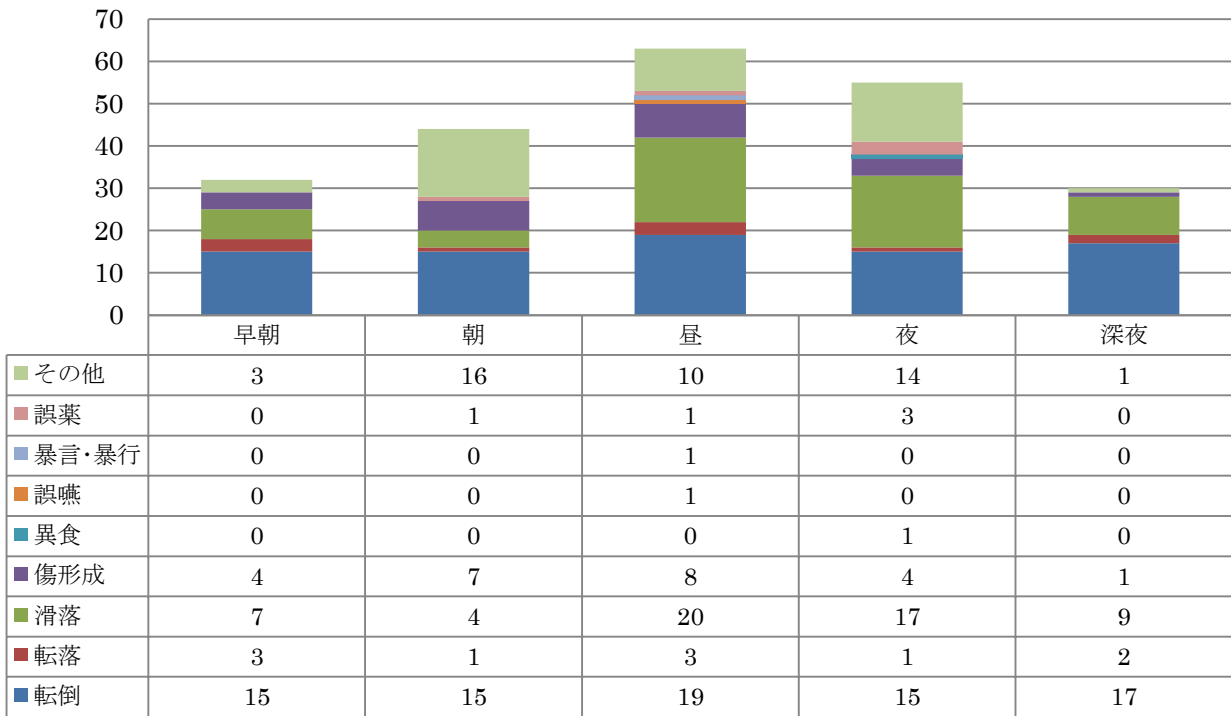


⑥時間帯別件数

ドキドキ、事故共に昼の時間帯が最も多い。やはり、ゲストが活動している時間である事が要因であるが、朝の時間帯は報告件数は少ないが、報告件数から事故の割合を考えると45.7%と割合が最も高く、居室内での動きだしの把握が難しくドキドキで留める事ができず事故に至りやすい時間帯である事を表している。



事故の時間帯別内訳



⑦まとめ

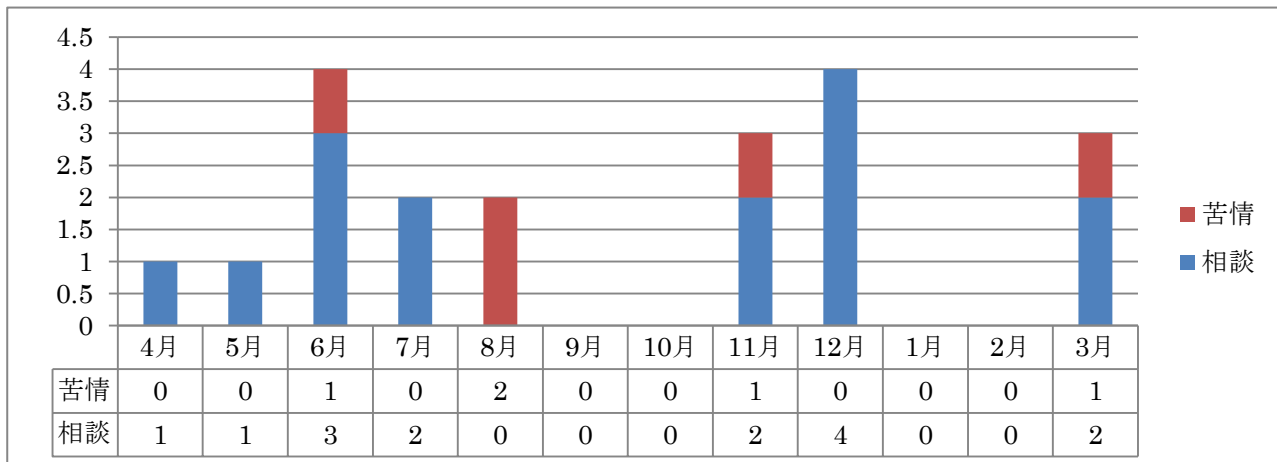
今年度、ドキドキ、事故を集計すると発生状況、発生内容の集計でその他としての集計が急激に増加している。現状態ではデータ収集から対応を策定する事が困難であり、その他として集計されている報告の洗い出しが急務となっているものとする。
又、居室での事故においては動き出しを把握する事が難しい為、理学療法士と共同し事故に至りにくい居室環境の整備に取り組み対応したいと考える。

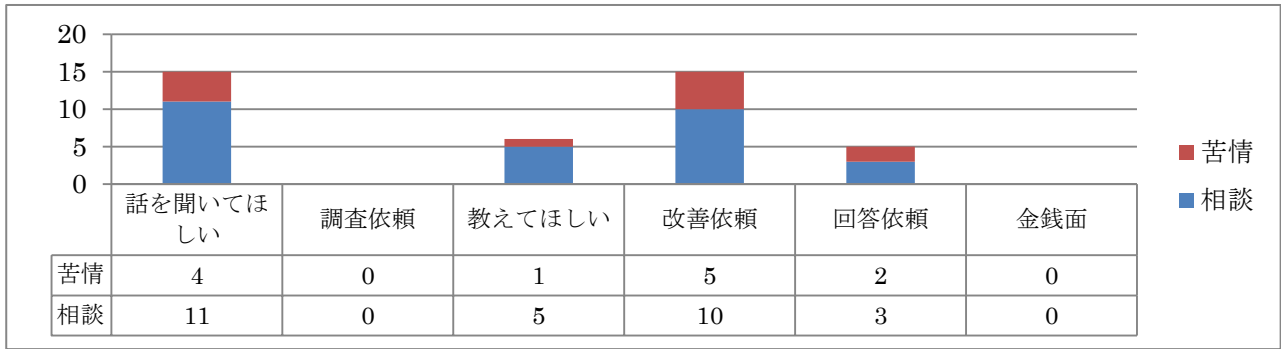
16.《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

平成24年度				平成23年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	20件	5件	15件		68件	57件	11件





○主な内容

今年度は、意識が薄く苦情相談の報告件数が激減。(前年度は68件) そのうち、施設長または副施設長が対応したものが5件である。大半は、リーダーが対応し、説明することで納得していただいている。内容は、ゲスト同士のトラブルや確認不足であり、言葉が足りず不安を与えているものがある。また事務費の減免手続きでも、不安を与え、役所等と連絡をとることとなった。

○まとめ

日頃より、お話を聞いている中での相談を前年度は記入できていたが、今年度はリーダーが対応できる相談を記入していなかったため、件数が大幅に減ってしまうこととなった。来年度は、小さな相談が大きな苦情にならないように、記入することに力を入れてそれぞれの対応方法を検討していくこととする。苦情の内容では、ほとんどが、リーダーが対応することで治まっており大きな問題にはなっていない。特定のご家族やゲストとは、日頃からのコミュニケーション不足で信頼関係を気付かせておらず、小さなことでも苦情に発展している。今後も面会時の挨拶、日頃の様子や細やかな情報の交換を行うことでご家族との信頼関係を構築し、トラブルを未然に防ぐよう施設全体で取り組んでいきたい。

17. 《総括》

ケアハウス大慈「らしさ」を共有し作り上げていく風土づくりを目指し、まずは経営理念、法人訓の周知等、職員教育において年間研修計画を作成し実施した。この事で計画的にOFF-JTを開催できるようになり、バリデーションの浸透においても、ケアハウス大慈独自のコミュニケーションスタイルを文書化した。ケアプランに盛り込むなど、評価が出来る体制も整える事が出来た。又、余暇活動の充実も目標として取り組み各フロアの特徴を踏まえたレクリエーションが提供できたと考える。

ただ、経営部門の目標として充足率97%の維持は達成できなかった。これにおいては、8～9月にかけて入院率が月平均7.6%と高値になったことが1番の原因であるが、もう一つの原因として年末から年始にかけて空床が出来たことに対し、速やかに入居案内が出来なかったことにも起因している。前者の原因に対しては、病院等外部の窓口を相談員に一本化。連絡を密にし、スムーズに退院して頂ける体制を整えたが、後者のものにおいてはチャージングポイントを明らかにし対応していく必要があり、この事は目標としていながら達成できなかった部分でもある。

オープン時、終身のケアハウスとして開設。しかし略痰吸引等、制度を踏まえて対応していくことを考えると難しい面があることも事実である。それ故に終身ということ进行全面としたチャージングポイントを見出していくことは難しい。しかし、ケアハウス大慈「らしさ」を作り上げる風土があれば必ずチャージングポイントが明らかとなる。風土は一日にして出来上がるものではない。今後も常に風土づくりを考えながら事業を行っていきたい。